

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2024.7.8-14

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

8:16 イスラエルの王アハブの子ヨラムの第五年、ヨシャファテがまだユダの王であったとき、ユダの王ヨシャファテの子ヨラムが王として治めるようになった。

8:17 彼は三十二歳で王となり、エルサレムで八年間、王であった。

8:18 彼はアハブの家の者がしたように、イスラエルの王たちの道に歩んだ。アハブの娘が彼の妻だったからである。彼は【主】の目に悪であることを行った。

8:19 しかし、【主】はそのしもべダビデに免じて、ユダを滅ぼすことを望まなかった。主はダビデとその子孫に常にともしびを与えると彼に約束されたからである。

8:20 ヨラムの時代に、エドムが背いてユダの支配から脱し、自分たちの上に王を立てた。

8:21 ヨラムは、すべての戦車を率いてツァイルへ渡って行き、夜襲を試みて、彼を包囲していたエドムと戦車隊長たちを討った。ところが、ヨラムの兵たちは自分たちの天幕に逃げ帰った。

8:22 エドムは背いてユダの支配から脱した。今日もそうである。リブナもそのときに背こうとした。

8:23 ヨラムについてのその他の事柄、彼が行ったすべてのこと、それは『ユダの王の歴史代誌』に確かに記されている。

8:24 ヨラムは先祖とともに眠りにつき、先祖とともにダビデの町に葬られた。彼の子アハズヤが代わって王となった。

8:25 イスラエルの王アハブの子ヨラムの第十二年に、ユダの王ヨラムの子アハズヤが王となった。

8:26 アハズヤは二十二歳で王となり、エルサレムで一年間、王であった。彼の母の名はアタルヤといい、イスラエルの王オムリの孫娘であった。

8:27 彼はアハブの家の道に歩み、アハブの家に倣って【主】の目の前に悪であることを行った。彼自身、アハブ家の婿だったからである。

8:28 彼はアハブの子ヨラムとともに、アラムの王ハザエルと戦うため、ラモテ・ギルアデに行った。アラム人はヨラムを討った。

8:29 ヨラム王は、アラムの王ハザエルと戦ったときにラマでアラム人に負わされた傷を癒やすため、イズレエルに帰った。ユダの王ヨラムの子アハズヤは、アハブの子ヨラムが弱っていたので、彼を見舞いにイズレエルに下って行った。

ユダではヨシャパテの次にヨラムが王となり、その次にアハズヤが王となりました。またイスラエルではアハブ王の後ヨラム王（ユダのヨラム王とは別人）が王となりました。

これらの王たちに共通しているのは、配偶者と親からの影響です。「アハブの娘が彼の妻であったからである。彼は【主】の目の前に悪を行った」、

「8:27 彼はアハブの家の道に歩み、アハブの家にならって【主】の目の前に悪を行った。彼自身アハブ家の婿になっていたからである。」などのように、親から娘へ、妻から夫へと不信仰が連鎖しているのがわかります。

子どもは親の姿を見て、影響されながら大人になります。争いの多い家庭、不信仰・不忠実な親からは、そのような子どもが育ちます。程度の差こそあれ、誰でもへりくだって、主の再創造のわざによって新しい家庭づくりをする必要があります。

これから結婚する人は、今から主に忠実な者となって、祝福に満ちた結婚へと導かれましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





9:1 預言者エリシャは預言者の仲間たちの一人を呼んで言った。「腰に帯を締め、手にこの油の壺を持って、ラモテ・ギルアデに行きなさい。

9:2 そこに行ったら、ニムシの子ヨシャファテの子エフーを見つけなさい。家に入って、その同僚たちの中から彼を立たせ、奥の間に連れて行き、

9:3 油の壺を取って、彼の頭の上に油を注いで言いなさい。『【主】はこう言われる。わたしはあなたに油を注いでイスラエルの王とする。』それから、戸を開け、ぐずぐずしてしないで逃げなさい。』

9:4 その若者、預言者に仕える若者は、ラモテ・ギルアデに行った。

9:5 彼が来てみると、ちょうど、軍の高官たちが会議中であった。彼は言った。「隊長、申し上げることがございます。」エフーは言った。「このわれわれのうちのだれにか。」若者は「隊長、あなたにです」と答えた。

9:6 エフーは立って、家に入った。そこで若者は油をエフーの頭に注いで言った。「イスラエルの神、【主】はこう言われる。『わたしはあなたに油を注いで、【主】の民イスラエルの王とする。』

9:7 あなたは、主君アハブの家の者を打ち殺さなければならない。こうしてわたしは、わたしのしもべである預言者たちの血、イゼベルによって流されたすべての【主】のしもべたちの血の復讐をする。

9:8 それでアハブの家はことごとく滅び失せぬ。わたしは、イスラエルの中の、アハブに

属する小童から奴隷や自由の者に至るまでを絶ち滅ぼし、

9:9 アハブの家をネバテの子ヤロブアムの家のように、またアヒヤの子バアシャの家のようにする。

9:10 犬がイゼレエルの地所でイゼベルを食らい、彼女を葬る者はだれもない。』」こう言って、彼は戸を開けて逃げた。

9:11 エフーが彼の主君の家来たちのところに出来ると、一人が彼に尋ねた。「何事もなかったのですか。あの気のふれた者は何のために来たのですか。」すると、エフーは彼らに答えた。「あなたたちは、あの男も、あの男の言ったこともよく知っているはずだ。」

9:12 彼らは言った。「?でしょう。われわれに教えてください。」そこで、彼は答えた。

『あの男は私にこんなことを言った。『【主】はこう言われる。わたしはあなたに油を注いで、イスラエルの王とする』と。』

9:13 すると、彼らはみな大急ぎで自分の上着を脱ぎ、入り口の階段にいた彼の足もとに敷き、角笛を吹き鳴らして、「エフーは王である」と言った。

オムリに始まりアハブ、アハズヤ、ヨラムと続いた王朝の最期がここに記されています。彼らは代々主に背き、異教・偶像に仕え、正しい預言者を殺し、圧制によって民を苦しめ、勝手な礼拝によって国を混乱させた王たちでした。

しかも苦難にあっても悔い改めることなく、むしろ正しい預言者に怒り、決して神に立ち返ることをしませんでした。そのような主への反逆は子から孫へと伝わり、もはやその一族の存在が、イスラエルを滅びへと追いやる存在となっていたの

です。

主は彼らによってイスラエル全民族が滅びることを、放置はしませんでした。エフーによってヨラム王と一族が滅ぼされ、ここに悪の王朝は消滅したのです。

家臣が混乱に乗じて王を殺し、王位を取るということは、古代にはよくあることでしたが、その背後には主のみこころがあったのです。主は先にエリヤにこのことを宣言しておられました。

どんなに華々しく見えるものでも、主をないがしろにするなら、その末路は悲惨なものであることを再認識しましょう。しかし主に立ち返るなら、主はその罪を赦し、全ての悪からきよめてくださることを覚えて、安心してつづき主のみこころを行いましょ。

そのために主イエスはすでに十字架にかかってくださいました。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたその部分の主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



10日 水曜

列王Ⅱ

9:14 こうして、ニムシの子ヨシャファテの子エフーは、ヨラムに対して謀反を起こした。先にヨラムはイスラエル全軍を率いて、ラモテ・ギルアデでアラムの王ハザエルを防いだ

が、9:15 ヨラム王は、アラムの王ハザエルと戦ったときにアラム人に負わされた傷を癒やすため、イズレエルに帰っていたのである。エフーは言った。「もし、これがあなたたちの本心であるなら、だれもこの町から逃れ出て、イズレエルに知らせに行ってはならない。」

9:16 それからエフーは車に乗ってイズレエルへ行った。ヨラムがそこで床についていて、ユダの王アハズヤもヨラムを見舞いに下っていたからである。

9:17 イズレエルのやぐらの上に、一人の見張りが立っていたが、エフーの軍勢がやって来るのを見て、「軍勢が見える」と言った。ヨラムは、「騎兵一人を選んで彼を迎えに送り、元気かどうか尋ねさせなさい」と言った。

9:18 そこで、騎兵は彼を迎えに行き、こう言った。「王が、元気かどうか尋ねておられます。」エフーは言った。「元気かどうか、おまえの知ったことではない。私のうしろについて来い。」一方、見張りは報告して言った。「使者は彼らのところに着きましたが、帰って来ません。」

9:19 そこでヨラムは、もう一人の騎兵を送った。彼は彼らのところに行って言った。「王が、元気かどうか尋ねておられます。」すると、エフーは言った。「元気かどうか、おまえの知ったことではない。私のうしろについて来い。」



9:20 見張りはまた報告した。「あれは彼らのところに着きましたが、帰って来ません。しかし、車の御し方は、ニムシの子エフーの御し方に似ています。狂ったように御しています。」

9:21 ヨラムは「馬をつけよ」と命じた。馬が戦車につけられると、イスラエルの王ヨラムとユダの王アハズヤは、それぞれ自分の戦車に乗って出て行った。彼らはエフーを迎えに出て行き、イズレエル人ナボテの所有地で彼に出会った。

9:22 ヨラムはエフーを見ると、「エフー、元気か」と尋ねた。エフーは答えた。「何が元気か。あなたの母イゼベルの姦淫と呪術が盛んに行われているのに。」

9:23 それでヨラムは手綱を返して逃げ、アハズヤに「裏切りだ、アハズヤ」と叫んだ。

9:24 エフーは力いっぱい弓を引き絞り、ヨラムの胸を射た。矢は彼の心臓を射抜いたので、彼は戦車の中に崩れ落ちた。

9:25 エフーは侍従のビデカルに命じた。「彼を運んで、イズレエル人ナボテの所有地であった畑に投げ捨てよ。思い起こすがよい。私とあなたが馬に乗って彼の父アハブの後に並んで従って行ったときに、【主】が彼についてこの宣告を下されたことを。」

9:26 『わたしは、昨日、ナボテの血とその子たちの血を確かに見届けた——【主】のことば——。わたしは、この地所であなたに報復する——【主】のことば。』それで今、彼を運んで、【主】が語られたとおり、あの地所に彼を投げ捨てよ。」

民がそれに従った記事があります。ですから「これがあなたたちの本心であるなら…」というのは、自分が王となることを本心から望んでいるのなら…という意味です。それで彼ヨラムに謀反を悟られずに、彼に近づいて殺しました。

これは神によって計画されていたことです。ヨラムの両親はイゼベルとアハズであり、彼らは邪教に仕えてイスラエルに荒廃をもたらした者です。ですからこれは単なるクーデターではなく、背後に主が働かれているのです。

もちろんエフーは神の正義などは考えてもおらず、ただ自分の目的のための行動です。神に従わない人でも、その行動の背後には主が働いておられますから、私たちは難しい状況においても、主に期待することができるのです。

また主のご計画が進んだからといって、関わった者が正しいとは限りません。常に主に聞いてみこころを行いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたの中の部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

この箇所在先立ち、エフーが謀反を起こして、





9:27 ユダの王アハズヤはこれを見ると、ベテ・ハ・ガンの道へ逃げた。エフーはその後を追いかけて、「あいつも討ち取れ」と叫んだので、彼らはイブレアムのそばのグルの坂道で、車の上の彼に傷を負わせた。それでも彼はメギドに逃げたが、そこで死んだ。

9:28 彼の家来たちは彼を車に乗せて、エルサレムに運び、ダビデの町の彼の墓に先祖とともに葬った。

9:29 アハズヤはアハブの子ヨラムの第十一年に、ユダの王となっていた。

9:30 エフーがイズレエルに来たとき、イゼベルはこれを知り、目の縁を塗り、髪を結び直して、窓から見下ろしていた。

9:31 エフーが門に入って来たので、彼女は「お元気ですか。主君殺しのジムリ」と言った。

9:32 彼は窓を見上げて、「だれか私にくみする者はいないか。だれかいらないか」と言った。二、三人の宦官が彼を見下ろしていたので、

9:33 彼が「その女を突き落とせ」と言うと、彼らは彼女を突き落とし、彼女の血が壁や馬にはねかかった。エフーは彼女を踏みつけた。

9:34 彼は中に入って食べたり飲んだりし、それから言った。「あののろわれた女の世話をしな。彼女を葬ってやれ。あれは王の娘だから。」

9:35 彼らが彼女を葬りに行ってみると、彼女の頭蓋骨と両足と両手首しか残っていなかった。

9:36 帰って来てエフーにこのことを知らせた。するとエフーは言った。「これは、【主】がそのしもベティシベ人エリヤによって語ら

れたことばのとおりだ。『イズレエルの地所で犬がイゼベルの肉を食らい、9:37 イゼベルの死体は、イズレエルの地所で畑の上にまかれた肥やしのようになり、だれもこれがイゼベルだと言えなくなる。』」

アハズヤは南王国すなわちユダヤの王で、北王国すなわちイスラエルとは分裂した関係です。しかしここで北のイスラエルの王と親交があるのは、実はアハズヤがイスラエル王であったアハブの娘を妃として受け入れたからです。すなわちアハブの妃であるイゼベルとも、アハブの息子であるヨラムとも親戚なのです。

それで北と南とは交流ができて表面的には良いように見えますが、信仰的には問題でした。つまりアハブもイゼベルも、邪教に仕えてイスラエルに混乱と不信仰を招き入れた王家であったからです。神様に反逆するような同盟は、続かないのです。アハズヤはその同盟ゆえの戦いで、死ぬことになってしまいました。

一方イゼベルは、夫アハブから息子のヨラムに王位が移ってから、権力の座にいたようですが、実際には家臣の心は離れて、このときには2～3人の宦官しかいなかったようです。または他にも彼らが突き落とすのを阻止しなかったということでしょう。

「ジムリ」とは謀反で権力に着いた後、7日で殺された人物であり、どうせエフーもそのようになるのだと高をくくっていましたが、その目論見ははずれました。単に権力の座にいるからということで、神を無視して自分中心を続ければ、人心は離れてゆくのです。その末路はすでに神様によって予告されていたことであり、悲惨なものでした。

ヨラムのように保身のために神をないがしろにするようなことがないように、心を覚ましましょう。自分に力や影響力があるなら尚のこと、

謙遜になって主に従いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





10:1 アハブにはサマリアに七十人の子どもがあった。エフーは手紙を書いてサマリアに送り、イズレエルの長たちや長老たち、および、アハブの子の養育係たちにこう伝えた。
 10:2 「この手紙が届いたら、あなたがたのところに、あなたがたの主君の子どもたちがいて、戦車や馬も、城壁のある町や武器も、あなたがたのところにあるのだから、すぐ、
 10:3 あなたがたの主君の子どもの中から最も善良で真っ直ぐな人物を選んで、その父の王座に就かせ、あなたがたの主君の家のために戦え。」
 10:4 彼らは非常に恐れて言った。「二人の王たちでさえ、彼に当たることができなかったのに、どうしてこのわれわれが当たることができるだろうか。」
 10:5 そこで、宮廷長官、町のつかさ、長老たち、および養育係たちは、エフーに人を送って言った。「私どもはあなたのしもべです。あなたが私どもにお命じになることは何でもいたしますが、だれも王に立てるつもりはありません。あなたのお気に召すようにしてください。」
 10:6 エフーは再び彼らに手紙を書いてこう言った。「もしあなたがたが私に味方し、私の声に聞くのなら、あなたがたの主君の子どもたちの首を取り、明日の今ごろ、イズレエルの私のもとに持って来るように。」そのころ、王の子どもたち七十人は、彼らを養育していた町のおもだった人たちのもとにいた。
 10:7 その手紙が彼らに届くと、彼らは王の子どもたちを捕らえ、その七十人を切り殺し、その首をいくつかのかごに入れ、それをイズ

レエルのエフーのもとに送り届けた。

10:8 使者が来て、「彼らは王の子どもたちの首を持って参りました」とエフーに報告した。すると彼は、「それを二つに分けて積み重ね、朝まで門の入り口に置いておけ」と命じた。

10:9 朝になるとエフーは出て行き、立ってすべての民に言った。「あなたたちに罪はない。聞きなさい。私が主君に対して謀反を起こして、彼を殺したのだ。しかし、これらの者を皆殺しにしたのはだれか。」

10:10 だから知れ。【主】がアハブの家について告げられた【主】のことは一つも地に落ちないことを。【主】は、そのしもべエリヤによってお告げになったことをなされたのだ。」

10:11 エフーは、アハブの家に属する者でイズレエルに残っていたすべての者、身分の高い者、親しい者、その祭司たちをみな打ち殺し、一人も生き残る者がいないまでにした。

列王Ⅰには「¹⁹¹⁶また、ニムシの子エフーに油をそいで、イスラエルの王とせよ。…¹⁹¹⁷ハザエルの剣をのがれる者をエフーが殺し…」とあります。一見エフーが悪者を懲らしめる良い王のようですが、実際は悪の道を歩んだ王でしたし、その王位も王殺して手に入れたのでした。

彼は「エリヤによってお告げになったこと」として、王とその子どもたちを殺したと主張しますが、神は決して彼に命じたものではありません。彼の非道な心を知って、そのように予見された上で、それを用いられたのです。

自分の行動が神に用いられたからといって、自分が正当化されるとは限りません。常に主に聞いて、良い動機でみこころを行いましょう。列王Ⅰには「¹⁹¹⁶また、ニムシの子エフーに油をそいで、イスラエルの王とせ

よ。…¹⁹¹⁷ハザエルの剣をのがれる者をエフーが殺し…」とあります。一見エフーが悪者を懲らしめる良い王のようですが、実際は悪の道を歩んだ王でしたし、その王位も王殺して手に入れたのでした。

彼は「エリヤによってお告げになったこと」として、王とその子どもたちを殺したと主張しますが、神は決して彼に命じたものではありません。彼の非道な心を知って、そのように予見された上で、それを用いられたのです。

自分の行動が神に用いられたからといって、自分が正当化されるとは限りません。常に主に聞いて、良い動機でみこころを行いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 13日 土曜

列王Ⅱ

10:12 それから、エフーは立ってサマリアへ行った。その途中、羊飼いのベテ・エケデというところで、

10:13 エフーはユダの王アハズヤの身内の者たちに出会った。彼が「おまえたちはだれか」と聞くと、彼らは、「私たちはアハズヤの身内の者です。王の子どもたちと、王母の子どもたちの安否を尋ねに下って来ました」と答えた。

10:14 エフーが「彼らを生け捕りにせよ」と言ったので、人々は彼らを生け捕りにした。そして、ベテ・エケデの水溜め場で彼ら四十二人を殺し、一人も残さなかった。

10:15 彼がそこを去って行くと、彼を迎えに来たレカブの子ヨナダブに出会った。エフーは彼にあいさつして言った。「あなたの心は、私の心があなたの心に対してそうであるように、真っ直ぐですか。」ヨナダブは、「そうです」と答えた。「そうなら、こちらに手を伸ばしなさい。」ヨナダブが手を差し出すと、エフーは彼を戦車の上に引き上げて、

10:16 「私と一緒に来て、【主】に対する私の熱心さを見なさい」と言った。エフーは彼を自分の戦車に乗せて、

10:17 サマリアに行った。エフーは、アハブに属する者でサマリアに残っていた者を皆殺しにし、その一族を根絶やしにした。【主】がエリヤにお告げになったことばのとおりであった。

10:18 エフーはすべての民を集めて、彼らに言った。「アハブは少ししかバアルに仕えなかったが、エフーは大いに仕えるつもりだ。

10:19 だから今、バアルの預言者や、その信



者、およびその祭司たちをみな、私のところに呼び寄せよ。一人も欠けてはならない。私は大いなるいけにえをバアルに献げるつもりである。列席しない者は、だれも生かしてはおかない。」エフーは、バアルの信者たちを滅ぼすために、策略をめぐらしたのである。

10:20 エフーが、「バアルのためにきよめの集会を催せ」と命じると、彼らはこれを布告した。

10:21 エフーが全イスラエルに人を遣わしたので、バアルの信者たちがみなやって来た。残っていて、来なかった者は一人もいなかった。彼らがバアルの神殿に入ると、バアルの神殿は端から端までいっぱいになった。

10:22 エフーが衣装係に、「バアルの信者すべてに祭服を出してやれ」と命じたので、彼らのために祭服を取り出した。

10:23 エフーとレカブの子ヨナダブは、バアルの神殿に入り、バアルの信者たちに言った。「よく見回して、ここには【主】のしもべがあなたがたと一緒に一人もおらず、ただバアルの信者たちだけがいるようにせよ。」

10:24 こうして彼らは、いけにえと全焼のささげ物を献げる準備をした。エフーは八十人の者を神殿の外に配置して言った。「私がおまえたちの手に渡す者を一人でも逃す者があれば、そのいのちを、逃れた者のいのちに代える。」

10:25 全焼のささげ物を献げ終えたとき、エフーは近衛兵と侍従たちに言った。「入って行って、彼らを討ち取れ。一人も外に出すな。」そこで、近衛兵と侍従たちは剣の

刃で彼らを討って投げ捨て、バアルの神殿の奥の間にまで踏み込んだ。

10:26 そして、バアルの神殿の石の柱を運び出して、これを焼き、

10:27 バアルの石の柱を打ち壊し、バアルの神殿も打ち壊し、これを便所とした。それは今日まで残っている。

エフーはバアルの祭司たちをだまし討ちにして殺しました。彼は「私の主に対する熱心…」と言っていますが、間違った自己満足によるものです。本当に主への思いで行動する人は自己宣伝をしません。また方法も主の目になつたものとするでしょう。純粋な良い動機で、良いことを行いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあつて何を実践しますか？



▶ 14日 日曜

列王Ⅱ

10:28 このようにして、エフーはバアルをイスラエルから根絶やしにした。

10:29 ただしエフーは、イスラエルに罪を犯させたネバテの子ヤロブアムの罪、すなわち、ベテルとダンにあった金の子牛に仕えることから離れようとはしなかった。

10:30 【主】はエフーに言われた。「あなたはわたしの目になつたことをよくやり遂げ、アハブの家に対して、わたしが心に定めたことをことごとく行ったので、あなたの子孫は四代目まで、イスラエルの王座に就く。」

10:31 しかしエフーは、心を尽くしてイスラエルの神、【主】の律法に歩もうと心がけることをせず、イスラエルに罪を犯させたヤロブアムの罪から離れなかった。

10:32 そのころ、【主】はイスラエルを少しずつ削り始めておられた。ハザエルがイスラエルの全領土で彼らを打ち破つたのである。

10:33 すなわち、ヨルダン川の東側、ガド人、ルベン人、マナセ人のギルアデ全土、つまり、アルノン川のほとりにあるアロエルからギルアデ、バシヤンの地方にまで及んだ。

10:34 エフーについてのその他の事柄、彼が行つたすべてのこと、彼のすべての功績、それは『イスラエルの王の歴代誌』に確かに記されている。

10:35 エフーは先祖とともに眠りにつき、人々は彼をサマリアに葬つた。彼の子エホアハズが代わつて王となつた。

10:36 エフーがサマリアでイスラエルの王であつた期間は二十八年であつた。

であつても良いことをするなら、主はそれを良しとしてくださいます。エフーはバアルを掃きましたが、しかし彼



はそれを正しい心からしたのではなく、自己満足や自己宣伝的にしたので、その方法はだまし討ちという間違つたものでした。主はバアルの掃削に関しては「よくやり遂げ…」とほめました。その心と信仰に関しては「心を尽くして…歩もうと心がけず、…罪から離れなかつた。」と非難しておられます。

それで「イスラエルを…削り始められた」のです。自分では神のために役立ったはずだと思ひ込んで、主はその心をごらんになります。また自己満足や自己宣伝、自己義認のための行動ではなく、あくまでも主ご自身のみこころに従つたのかどうかをごらんになります。そうでないなら、自分勝手に祝福があるはずだと思ひ込んで、それはかなわないことです。

動機と目的が主に喜ばれているかどうか、その愛とよきさにふさわしいかどうかを、自己吟味しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

